

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 広報活動を充実して後期課程の入学者の確保に努め、必要があれば定員の見直しを行う。	→後期課程の定員充足率。後期課程進学状況。	C	C			
2. 入試形態ごとの学生の受け入れ方針を明文化し、社会に周知する。	→受け入れ方針を明記した各入試の募集要項やホームページ。	B	B			
3. 学生の受け入れ方針を定期的に検証する大学院委員会を設置し、問題点があれば改善していく。	→大学院委員会設置の有無、当該委員会の開催回数、検討改善の状況。	C	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

(その他の指標データ)
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
 科目等履修者の入学者数
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	「障がいのある学生の受け入れ方針」は理工学研究科としてはまだ明示されていない。
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	後期課程の学生の定員充足については、引き続き確保に向けた努力が必要である。潜在的な進学希望は存在しており、終了後の研究職就業に関する不安など進学を阻害する要因を解消する必要がある。
小項目5.0.4	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策** 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	「障がいのある学生の受け入れ方針」を明示する。現在、方針についてその策定が進行中である。
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	就学支援や奨学金等の整備を引き続き行う。また社会人が博士後期課程に入学しやすい環境を整備する。就学支援制度の広報とあわせて、研究職就業支援体制の充実など総合的な取り組みを行う。
小項目5.0.4	
その他	

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	理工学研究科で行われている先端研究の社会に対する広報を充実させ、当研究科が先端科学研究を遂行する研究大学院であることの魅力を内外の学生にアピールすることが重要である。そのためにも研究科の規模拡大と研究内容の充実が肝要である。
--------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○後期課程の学生の定員充足については、指摘のあるとおり、継続的な取り組みが期待されるようです。

【学内委員】

○理工学研究科はHP上にアドミッションポリシーとして「求める学生像」をきちんと明示しており、このことは評価できます。障がいのある学生の受け入れ方針は、まだ明示はされていませんが、明示に向けた方針は策定中であるので、今後の具体化が期待されます。学生募集、入学者選抜は適切に行われており評価できます。収容定員に関しては、前期課程においてはほぼ達成されており、評価できますが、後期課程は50%台に留まっており、今後より一層の充実が望まれます。

○現状の説明で、「『求める学生像』は理工学研究科のアドミッションポリシーに記述し、理工学研究科のホームページ上に掲載している。」とありますがURLを示していただきたい。受け入れ方針で教育目標を掲げていますが、ここでの方針とは、理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像を明示した上で、修得しておくべき知識等の内容・水準を示すことです。確かに入試要項では試験内容が示されていますが、知識内容だけという偏りがあるかと思えます。どのような技能、能力、態度が必要か記す必要はないのでしょうか。

○後期課程の定員充足率が低いと思われま。

○後期課程における定員管理は難しい問題ではありますが、目標の達成に期待します。

○小項目5.0.2については、大学基準協会は基盤評価を「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」としています。この視点から簡単な説明が望まれます。

○昨年度、改善方策にあげられた検証の委員会が設置され、検証されていることは評価できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

5.0.1(現状説明)

理工学研究科のアドミッションポリシーは、以下に掲載している。

(<http://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/g-admissions3/index.php?id=5>)

★5.0.2(現状説明)

学生募集方法・入学者選抜方法に関しては、詳細な入試データを公開することで透明性を確保し、また様々な能力を持つ受験生に対して公正な機会を提供している結果として、他大学出身者、社会人、外国人など多様な学生が入学している。